

Elementary school



心に響くハーモニー奏でる

野口英世博士顕彰記念町内小中学校音楽祭は10月7日、学びいなかで開かれ、町内6小学校の児童と3中学校の生徒合わせて789人が参加しました。

この音楽祭は、町教育委員会と町校長会が主催、野口英世記念会の後援で開催されたものです。

ステージでは、児童・生徒が日ごろ練習してきた合奏や合唱などを披露、練習の成果を発揮し、会場を訪れた保護者らを魅了しました。

音楽鑑賞のコーナーでは、ブラスアンサンブルの「ルスティーク」による演奏がありました。

メンバーの7人は、トランペット、ホルンやトロンボーンなどで古典から現代作品、ポピュラーまで演奏する金管楽器のスペシャリスト。日本のトッププレイヤーが奏でる力強さとなめらかさを兼ね備えた音色に、参加した児童・生徒たちは、熱心に聞き入りました。



写真上 「いつも何度でも」「ルパン三世のテーマ」で息のあった演奏を披露した猪苗代小学校
写真下 マーチングバンドとして東北大会出場も果たした長瀬小学校

High school



大会を支えるボランティア

ゼビオ猪苗代湖ハーフマラソン2011は10月30日、町内で開催され、多くの町民がボランティアとして参加しました。その中には、参加者受付の案内誘導や手荷物の返却などに携わる猪苗代高校の生徒の姿がありました。

マラソンが好きだという佐々木裕香さん(1年)は、ボランティア活動全般に興味があるという中村アイリンさん(同)と参加。「私はいつも走るほうの立場だったので、今日は運営する側として関わってみたい」と話し、笑顔で参加者を案内していました。

クラスの有志で参加した加藤美希さん、小椋亜美さん、森田未来さん(同2年)は「もともとボランティアに興味があり、地元で開催される大会の盛り上げに一役買おうと思って参加しました。ほかのボランティアの人もやさしくて、楽しくできました」と感想を述べました。



写真上 前列左から中村さん、佐々木さん、後列左から小椋さん、加藤さん、森田さん
写真下 手荷物預かり所に預けられた2000個を超える荷物の中から、参加者のものを探す森田さん

スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO



正之公のように頑張ります

猪苗代の偉人を考える会が発行した書籍「名君・保科正之の生涯と土津神社」の贈呈式は10月19日、町役場会議室で執り行われ、町内6小学校の児童、町内3中学校の1年生、先生や図書室など合わせて1100部が寄贈されました。

式では、同会の江花俊和会長が「正之公のことを、もっと地元の人たちに知ってもらいたい。会津藩の基礎を作った立派な人が土津神社に眠っている。それを誇りに思ってもらいたい」とあいさつ。町内の児童を代表し、千里小学校6年生の氏田泰地さんと長沼依理さんに本を手渡しました。

氏田さんと長沼さんは「私たちが先人に学び、勉強や運動を頑張りたい」とお礼の言葉を述べました。

この本の漫画やイラストは、画家でもあり、以前山瀧小学校に勤務していた馬場泰校長(現会津若松市永和小学校長)が手掛けています。



写真上 江花会長から本を受け取る児童たち。左から千里小学校の本名幸平校長、氏田さん、長沼さん、江花会長
写真下 分かりやすい言葉、写真やイラストで正之公の人生や功績を解説しています



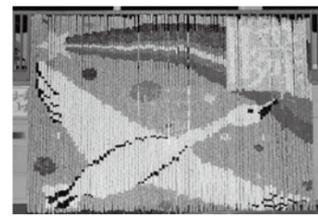
文化祭で学習の成果を披露

吾妻中学校の文化祭は10月30日、「瞬」をメインテーマに、同校の体育館で開催されました。

開会セレモニーでは、神末由華実行委員長が「生徒一人一人が、今しかないこの瞬間を未来につなげよう」と文化祭の準備をしてきた。発表や合唱などを見ていただき」とあいさつ。生徒たちが見どころなどを紹介した後、テーマ文字や12,000枚の折り紙を使ったビッグアートが披露されました。

会場には習字、絵画、ランプシェードや手作り絵本など、生徒たちの作品を分かりやすく展示。そのほか、総合的な学習の時間に制作したスライド、英語弁論や合唱などが次々と発表されると、会場の保護者らは真剣な表情で聞き入りました。

自由発表では、太鼓の演奏、少林寺拳法や保護者・職員による演奏などが披露され、会場は大きな歓声と拍手の音に包まれました。



写真上 全校合唱「HEIWAの鐘」は、野口英世博士顕彰記念町内小中学校音楽祭でも披露した曲
写真下 生徒が折った折り紙をつなげて完成させた、縦4m×横6mのビッグアート

Elementary school

Junior high school